

2018（平成30）年度 京都大学 入試問題 文系 第2問 解答例

問一

喫煙と坐業で衰弱した躰が急に夜半過ぎの清浄な空気に触れ、体内の異状に過敏な反応をして咳が出るということ。

問二

車のライトが突然異例な位置と方向から、近くを歩いていた男を照らし、男の影を遠く離れた壁に映じたということ。

問三

もとは誰かと何らかの理由で飲み始めた酒であっても、酔って一人で夜道を帰るところまで来れば、もはや他人も家庭も今は気にかける必要がなく、最初の飲酒の理由すら関係なくなり、酔いを気ままに発散していられるということ。

問四

酔いが発散しない「私」は、影だけを壁に映じた男が気ままに酔って歩く状態を羨みつつ、一瞬その影を自身の影と錯覚し、影が歩み始めた時、自分自身が日常から逃れて自由気ままに歩み去って行くのを見送るような気がしたから。

問五

人間には、仕事や家庭に拘束された、自覚的に送っている日常生活とは別に、無自覚なまま、見知らぬ他者に自身の存在が認められ、交渉を持つという、無意識的で日常生活から解放された、気ままな人生の一面もあるということ。